

電柱沓重如束笋 沙堆起伏似狂波

白楊深處飛鴉起 紅柳叢中飲馬多

極目蒼茫邊地景 玉門關外更如何

沙河堡は沙河の左岸に在りて、人家七八十を有し、商店多し、九眼泉、小屯子、古寨堡間は所々牛羊を牧畜す。撫彝城は人家約三百、廳衙門あり、軍隊は歩兵三百餘人を備ふ。公所には巡警局、電報局等あり、宗教は獨り佛教のみにて、其の南山なる觀音寺には四五十名の僧侶あり、長へに佛恩に浴すと。産物は小麦、米、薪、石炭等を最とし、飲料は沙河堡と同じく井水、河水を用ひて共に良し、次で三工堡、雙泉鋪、渠口堡、十里堡を経て全程約十二里、高臺城に投ず。之を四日の行程とす。

高臺城は人家約四百、磚製の城壁之を繞り、知縣、都司の衙門を置き、數個の小學堂を有す。軍隊は歩兵百二十五名を備へ、公所には巡警局、昨年初めより設置せられしも、未だ人の事務に服する者なし。産物は穀類、鴉片、棉花の外、羊、豚、雞等にして、其の南山よりは、日々數千斤の石炭を産すと。是日氣温午前は、二十二度、午後は四十五度を示し、之を前數日來に比較せば、十五六度を異にせり。又以て氣候劇變の